

平成 27 年度版 CROWN English Communication III

発行者		教科書	
番号	略称	記号	番号
15	三省堂	コⅢ	305

1 特色および題材内容

〈特色〉

- ことばの教育、国際理解教育、人間教育を題材選定の基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、生徒の興味を喚起する内容にしました。
- ことばと人間との関係やことばと社会との関係など広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てます。
- 言語能力の本質としての思考力の養成を土台として、英語の基礎的な知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図ります。
- 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、生徒の興味・関心を喚起する題材内容を提示すると共に、「言語の使用場面」と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動をおこないます。
- 高校 1・2 年における学習で習得した基礎的な能力を更に伸ばさせながら、4 技能における言語活動の総合的かつ統合的な関連をはかることができます。

〈題材内容〉

- テーマは、生徒の興味・関心を喚起するものを精選し、具体的には日常生活・学校生活、比較文化、社会貢献、人間としての生き方、日本文化、芸術、平和と国際協力、科学、言語と民族、地球環境、医療、経済など多様な内容を取り上げました。文章は、説明文、論説文、手紙文、インタビュー（対話文）、レクチャー、スピーチ、物語など変化をもたせました。
- 場面や登場人物は、英語が広く使われている現況と国際理解の課題との関係から、日本を中心に、英語圏諸国、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アラブの国及び人物を配置しました。

2 言語材料の扱い

〈文型・文法〉

- 言語材料は、活発で多様な言語活動を展開することができるように配慮しました。
- 文法事項は表現活動に活用することを基本として精選し、基本的な文型・文法事項を扱いました。

〈単語・熟語〉

- 限られた語彙の中でも豊かな表現ができるよう、単語や熟語は使用頻度の高いものを精選しました。
- 単語はコミュニケーション英語 I および II までの既習語を 2,323 語とし、それ以外の語を新語として脚注で示した。また、扉ページの語彙チェックでは語彙に関する練習を系統的に扱うとともに、巻末に「文法のまとめ」「Word List A・B」「Phrase List」を掲載しました。
- 本課以外では 65 語の新語を取り上げました。

3 言語活動

- 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、「言語の使用場面」の明確化と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動を目指します。
- コミュニケーション英語 I および II における学習で習得した基礎的な能力をさらに伸ばさせながら、4 技能における言語活動を総合的・統合的に扱いました。
- 本課ではインタビュー（対話文）、レクチャー、スピーチ、物語文などさまざまな形式が用意されており、生徒が自己発信する際のサンプルとして有用です。
- Take a Moment to Think は本課の内容を喚起させ、生徒の興味・関心を呼び起こす Pre-Reading 活動としました。
- Activities は本文のテーマに関連した発信型の創造的な言語活動です。「他者の意見を聞いて話す」活動を中心

に、「読んで話す」「書いて書く」など、4技能を統合的に扱いました。

6. セクションごとに配したリスニング問題(T-F)など、「聞く」活動も充分におこなえるよう配慮しました。

4 構成と内容

1. 各課の本課本文は、4技能の習得を目指す総合的な教材としました。全体を難易度や英文の長さによって3パートに分けています。各課は原則として3~4セクションで、1セクションは300~350語前後で構成されています。また、各セクションは見開きで提示され、使いやすさに配慮しました。
2. 各課の冒頭には①Take a Moment to Think、②イントロダクション、③語彙チェックを配し、英語で授業をする際にスムーズに導入できるように配慮しました。①は生徒の背景知識を活性化させる活動、②は課の内容を150語程度の平易な英文で説明したもの、③は②の英文に太字で示されたキーワードの意味を前後の関係から類推し語彙から選ぶ活動です。
3. 傍注には新出の熟語・連語などを示しました。日本語は与えず、同義語を示すなどして、生徒の学習意欲を喚起する配慮をするとともに、英語で授業をおこなう際の一助となるようにしました。また、傍注の最後にはリスニングによる True-False を各セクション3題ずつ配置しました。
4. 各ページの脚注には、上段に本文の内容に関する質問(Q)下段に新出語を示しました。
5. Post-Reading 活動は、Check、Summary、Food for Thought、Activities で構成し、4技能の言語活動が、総合的・統合的におこなわれるように配慮しました。以下は、各項目の概略です。
Check : 本課の内容の確認。
Summary : 本課の内容の要約。
Food for Thought : 本課の中心的なテーマをつかむための PISA 型読解力養成のための設問
Activities : 本課の題材内容に関連した発信型の創造的な言語活動
6. 各課の最後には Optional Reading を選択的教材として配置し、本課に関連するテーマを別の角度・視点から考えることができるようにしました。
7. 各パート最後の Story は、細部にこだわらずに概要をとらえながら読む、比較的長めの読み物です。
8. Reading Skill は、コミュニケーション英語 I および II で習得した読み方の技術を応用して、実際的なスキルを身につけることができるように工夫しました。
9. 巻末の文法のまとめでは、文法事項の整理と確認をすることができます。
10. 巻末の Word List、Phrase List では、コミュニケーション英語 I と II の既習語とともに新出語句を掲載し、初出ページを示しました。

5 そのほか

1. 教科書全体で日本語の使用を Food for Thought と Optional Reading の Focus on Reading に限定し、熟語はできるかぎり英語で言い換えるなどして、英語で授業をする際の補助としました。
2. 本文はリズムや文の長さなどにも配慮し、音読指導にも適しています。
3. パラグラフの構成を意識し、本課本文だけでなく、Summary の英文でも、生徒が自分で書く際のサンプルとなるように配慮しました。
4. 写真や図版を豊富に扱うことで題材に対する興味を喚起し、内容理解の一助になります。